山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第24号(2007.9)

学校・家庭・地域社会の連携に向けた学校の取組み

霜川　正幸

Efforts by Schools for the Cooperation among Schools, Home and Community

SHIMOKAWA Masayuki
(Received July 20, 2007)

キーワード：学校・家庭・地域社会の連携、教育環境、情報発信、ネットワーク

はじめに

筆者は、平成17年度まで公立中学校に勤務していた。それまでの25年の教育現場、教育行政での経験から、子どもたちは学校だけで成長するものではなく、「生きる力」は学校、家庭や地域社会での生活や様々な人たちとの関わりの中で育まれると考え、学校の経営方針、生徒の実態、家庭の実情や地域社会の特徴等をふまえた教育活動の展開が重要と考えてきた。

近年、学校・家庭・地域社会の連携を求める声が多い。山口県教育委員会(1)も指摘するようにそれぞれの教育機能を果たしつつ相互に連携し、より一体的に取り組むことが必要と言われる。「連携」とはどういうことなのか。どういう取り組みが求められているのか。

筆者は、学校自体が、地域から好かれる、親しみと身近な存在という意識を持ってもらえるよう努力をする必要があると考えてきた(2)。取り組んできた実践の一部を報告する。

1．学校、地域の概要

周南市立須金中学校　山間過疎地にある小規模校

周南市須金地区

・少子化、高齢化が進行する山間過疎地　人口（H18　320世帯650人）58%が65歳以上

・教育への関心、意識

教育や後継者育成に向けた期待が大きい。

子どもを大切に育てようとする気持ちも強い。

家柄や古くからの人間関係を基にした考え方が強く、子どもへの見方にも反映される。

教育は学校に任せるといった意識が強いが、学校からの依頼には協力的である。

ＰＣやインターネットの普及は、年齢構成、若年人口、地域離れから極めて遅い。

＊日本教育情報学会第22回年会にて一部発表、平成18年8月26日（岡山理科大学）

2．学校・家庭・地域社会の連携に向けた取組みの実際

(1) 学校・家庭・地域社会の連携を進めるにあたって

学校は、地域から好かれる、親しみと身近な存在という意識を持ってもらうことが必要と考え、そのための条件を次のように整理した。

表１　　学校が家庭や地域社会から好かれる条件（仮説）

①学校の内部が見える
- 子どもたちの学習や生活の様子、考えていることが具体的に分かる
- 教職員の指導や仕事の様子、考えていることが具体的に分かる
- 学校としての考え方、今年度の方針、計画、行事等が具体的に分かる
- 学校が地域にして欲しいこと、協力して欲しいことが具体的に分かる

②学校に自分たちの思いを反映できる
- 子どもたちの学習や生活に、変化や影響を与えることができる
- 教職員の指導や仕事に、変化や影響を与えることができる
- 学校の教育活動に自分たちが貢献できる

③学校、子どもたち、教職員と自分たちの両方に良いことがある
- 子どもたちの学習や生活の様子が良くなるのが実感できる
- 教職員の指導や仕事の様子が良くなるのが実感できる
- 自分たちの知識、技能や好奇心が向上し、生活が充実する
- 自分たちの学校や子どもたちへの貢献が、地域全体で認められ、喜ばれる

(2) 学校や子どもたちの情報を伝えることで、連携を深める取組み

【取組み】

①学校から発信する情報
- 学校要覧（学校としての教育理念、方針、年間計画、教職員スタッフや教科、担当分掌等の紹介、子どもたちの在籍状況、学年、学級、生徒会組織、部活動一覧、ＰＴＡ組織等を、図表、写真等を添えて紹介するパンフレット）
- 学校新聞、生徒指導だより、交通安全だより、学級通信
- 案内チラシ（各行事等の地域に対する案内状）
- ＰＴＡ新聞

○　学校要覧とＰＴＡ通信はＡ３判両面印刷袋とじに、学校新聞、案内チラシ等はＡ４～Ｂ４判に編集した。高齢者が多いことから、文字サイズを大きめにし様子が具体的に分かるように写真やコメントを多めに挿入した。

○　地域ぐるみの教育、子育ての推進を意識し、啓発の意味を込めた語句、タイトルや文章等を意図的に取り込んだ。

○　学校要覧は、学校、教職員やＰＴＡの様子を具体的に紹介し、より身近に感じてもらえるような構成にした。

②情報を発信する対象
- 須金地区全戸（320 世帯）

・地区内行政・教育関係団体、事業所、須磨小学校教職員（30ヶ所）

③情報発信の手順と方法（図１参照）

・写真、作文等掲載の許諾（資料１）

・発信情報の作成

・発信

○　発信（配布）は、地区自治会連合会の協力を得て、班長による全戸配布とした。回数は半月単位による年間24回とした。

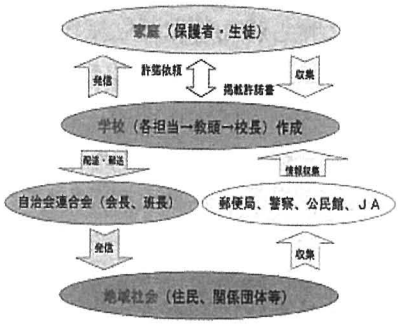


図1　情報発信、収集の流れとつながり

④情報回収の手順と方法

・「声のたより（返信欄）」確保（紙面内）

・回収ポストの設置（小学校、中学校、役所支所、公民館、ＪＡ、郵便局、警察署）

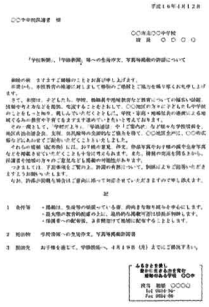
・学校教員による定期回収

○　情報が、学校からの一方通行にならないように、多くの通信に「声のたより（返信欄）」を入れ、保護者、住民からの学校、学校教育や子どもたちに関する意見、要望、期待、情報等を投稿してもらった。

⑤提供情報の反映

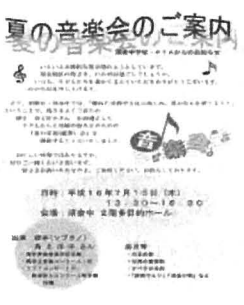
・投稿内容は以後通信紙面に反映

○　学校や子どもたちに関する内容以外でも、地域の子育て、生涯学習、防犯・交通安全、地域情報等の内容を教育に関連させながら記事化することとした。



資料1　掲載許諾依頼

資料　学校要覧



資料　案内チラシ

資料　学校新聞

【結果と考察】

①学校から発信した情報（Ｈ17）

・学校要覧（1：年度当初）学校新聞（12：毎月）ＰＴＡ新聞（3：各学期末）

・生徒指導だより（3：各学期に１回）交通安全だより（3：県民運動期）

・学級通信（21：1年3、2年5、3年13）

・案内チラシ（15：参観日3、講演会3、文化行事5、福祉行事2、運動行事2）

②地域からの反応（「声のたより」による返信の一部）

・「ずいぶんたくさんの新聞が学校から来るようになった。自分の子どもが卒業してから、足が遠のいたが、久しぶりに学校の様子が分かっていろいろ変わったと感じる。」

・「この間、新聞に立派な作文を書いておられた２年生の男のお子さんが農協の前におられたので、立派な作文だったと伝えると嬉しそうにしておられました。あれから挨拶をしてくださいます。今頃の子どもはとよく言われますが、そんなに変わってはいないと思い、有り難いことだと思っております。」

・「親の立場からしても、子どもの頑張っている姿を伝えてもらえるのは良いことだと思う。須金のいろいろな人が子どもを知っている、気にかけてくれていると思うだけで、子どもの意識が違うと思う。何かあった時でも、お互い助け合える雰囲気をつくることは大切と思う。」

・「支所に来られる方々の会話の中に、学校のこと、児童生徒のこと、記事のことがよく出ます。ご自身の意見が記事になったりした時は、わざわざ支所に持って来られたりします。温かい人間関係につながっているのかもと思います。」

③考察

学校の教育情報を地域全家庭に発信（配布）することにより、学校、子どもたちの様子、現状と課題等について具体的に紹介できたり、学校や教職員の考え、進めようとしている計画や方法等を伝えることができた。

また、自らの投稿内容が紙面で紹介される楽しみ、喜びもあって、各所で、学校や子どもたちのこと、教育や子育てと地域づくり等が共通の話題となった。投稿も次第に増加し、地域の教育ネットワーク、人間関係の進展にもつながっている。

学校教育の充実や子どもたちの健全育成には、保護者や地域住民が、学校に対して、自分たちの学校、地域の学校としての愛着を感じること、学校や子どもたちの現状と課題をありのままに共有しようとすることや、内側が「よく見える」ことが必要と考えられた。

学校には、より積極的な情報発信、情報収集により、地域あげての教育を推進させることが求められている。

(3) 学校に来てもらうことで、連携を深める取組み

【取組み】

①地域行事として開放した行事

・学校行事

始業式、入学式、参観授業、終業式、卒業式、総合学習体験学習会

・生徒会行事

文化祭、立志式、福祉交流会

・ＰＴＡ行事

救急救命法講習会、音楽鑑賞会、教育講演会、親睦球技大会

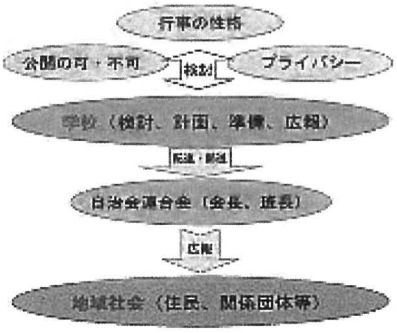


図2　行事の地域開放手順

○　学校や子どもたちの様子や考えを「よく見てもらう」ため、交流の中でより「親近感を高める」ため、原則的に学校行事、生徒会行事やＰＴＡ行事を地域行事ととらえて住民に公開した。

②行事開放の手順と準備（図２）

・学校内での検討

行事の性格、開放実現の可不可、生徒や教職員のプライバシー、教育的配慮
・行事計画の作成
・広報文書（案内チラシ）作成
・発信と行事準備
○　保護者席に加えて「地域来賓席」を準備する。行事内容により、子どもたちと同席とした。

【結果と考察】
①学校への来校者数（Ｈ 17）
・学校行事　始業式（16）入学式（24）参観授業（18）終業式（10）卒業式（28）総合学習体験学習会（15）
・生徒会行事　文化祭（72）立志式（20）福祉交流会（35）
・ＰＴＡ行事　救命法講習会（22）音楽鑑賞会（67）教育講演会（53）親睦球技大会（78）
②地域からの反応（「声のたより」に寄せられた通信の一部）
・「先日は、劇団公演ありがとうございました。日頃なかなか見られないもので楽しい一時でした。生徒さんたちの真剣さに感心しました。またお願いします。」
・「立志式に記念の餅つきをするという生徒のアイデアには驚いた。昔のような堅苦しい式をイメージしていたのだが。担任の先生と一緒に元気よくついている姿が印象的だった。中学校２年生ともなるとかなり大人という印象をもった。」
・「参観日の授業を見ていて、姿勢が悪い子がいることが気になった。椅子に座る姿勢から崩れている子がいる。声の小さい子、返事の小さい子、なにか元気がないような子もいる。家できちんと躾をすることが大切で、話題にしてみたい。」
・「落語会におじゃましました。落語は勿論楽しかったのですが、それ以上に生徒さんたちと一緒に大笑いしたことが嬉しかったです。ありがとうございました。」
・「近所のお子さんがいらっしゃいました。今の学校のお勉強は、以前と違って実に楽しそうです。外国の先生が来られて英語を教えてもらえるのですね。」
・「今日の講演会は、読書や絵本をとおして心を育てるというお話でした。最近、若いお母さんたちが、子どもが寝る前に、本を読んだり、１日を振り返らせながら、心を育てることに真剣になっているという話は大変興味を持ちました。うちでも早速やってみようと思いました」
・「今日は、日頃あまり出会うことのない方々と一緒にソフトバレーをした。その後の交流会でも、部活動のこと、昔の須金中のこと、先生方のことなどいろいろな話ができて楽しかった。たくさんの人たちが、見えないところで須金や僕たちを守っているという話がすごかった。」（生徒生活記録より）
③考察
時間と時間をともにすることにより、地域住民と子どもたちが、お互いを見る目を豊かにしたようである。学校に来てもらう機会を増やすこと、人数を増やし交流を広げることで、地域からは、ますます学校が近い存在になり、子どもたちは、地域の人を知り、自分たちとの関わりを意識することが出来た。

(4) 子どもたちの学習を生かすことにより、連携を深める取組み

【取組み】

○　総合活動部（文化系部活動）の生徒と教師が、地域住民に対するニーズ調査を基に、企画、準備、運営の全てを行った「パソコン講座」の取組みを報告する。途中、公民館より共催の申し込みがあり、ポスター、チラシ等印刷、広報等の活動や予算補助等の支援を受けた。

①実施要項

須金中学校生徒による「須金地区パソコン講座」

１目　的

須金中学校総合活動部の生徒が、中学校での学習で身に付けたパソコンの技能を活用した「公民館講座」を企画、運営することにより、学校や生徒のことをより身近に感じていただくとともに、日頃お世話になっている地域の方々に対する感謝や中学生でもできる貢献を示す機会とする。

２主　催

周南市立須金中学校（総合活動部）、須金公民館

３日　時　（以下の日程で５回の連続講座とする）

５月２０日、２７日、６月３日、１０日、１７日

１６：１０～１７：００

４場　所

周南市立須金中学校 パソコン教室

５対　象

保護者並びに地区住民

６指導者

総合活動部員並びに教職員、公民館主事

資料２　山口新聞平成 17 年 5 月 21 日

７その他

・　この講座は、須金公民館地域公開講座の１つとして開催する。資料印刷等の経費は須金公民館が負担する。

・　受講に当たっては、須金地区自治会連合会の協力を得て、須金地区全戸に対する広報による募集を行う。希望者多数の場合は、須金公民館において抽選を行う。

②講座内容

第１日目　・開講式、パソコンの基本

第２日目　・ワープロソフトを使った「自己紹介文」の作成

第３日目　・ワープロソフトを使った「短歌・俳句」の作成と発表会

第４日目　・ワープロソフトを使った「暑中見舞い・年賀状」作成と発表会
第５日目　・インターネット体験（ウェブページ訪問や検索の実際）、閉講式
記念撮影、中学生から修了証の授与、懇談

○　初日には開講式があり、公民館長、中学校長の挨拶に続いて、指導者である中学生、教員、公民館主事の紹介があり、引き続いて講座が開催された。閉講式では、中学生から、受講者全員に「修了証」が手渡され、仲良く記念撮影に収まった。

【結果と考察】

①受講者数　各回とも7人（全て女性、60歳以上）

②受講者の感想（全日程終了後に依頼した感想カードより一部）

・「難しかったが趣味の短歌の印刷ができるようになった。次も頑張りたい。」
・「○○君が、順序だてて分かりやすく説明してくださいましたので、孫に聞くよりよく分かりました。たいへん嬉しく思いました。ありがとうございました。」
・「こういう機会を通して、随分学校に来ることが多くなりました。学校にこれだけのパソコンがあることも知りませんでしたし、子どもさんや先生方も気軽に話しかけてくださり本当にありがたい。こうやって、お互いが分かり合えることが大切なんですね。自分の子どもはとっくに卒業しましたが、そんな私たちにも、いつも、たくさんのお知らせやご案内をいただき本当に感謝しております。いろいろなことが分かるようになることは嬉しいことですから、学校のおかげです。」
・「知らなかった子どもたちとも話すことができて嬉しいし、出会った時に挨拶しやすくなりました。どこの子どもさんかも分かるようになりました。子どもたちを知っていると、お互いに困ったときに助け合えるし、良いことですね。」

③中学生の感想

・「緊張しました。でも、皆さんに分かってもらえるように、自宅で、父に助けてもらいながら必死で準備しました。人に教えると言うことは本当に難しくて、分かりやすく丁寧に説明するために、自分自身でパソコンに向かいながら、何度も繰り返して練習しました。いろいろな質問にも答えなければいけないので、質問を予想しながら、自分の勉強になりました。無事にすんでほっとしています。」

④考察

生徒は、「ネズミの形をしているのがマウスです。可愛いですね。そのネズミの左側のボタンをカチカチッと押してみてください。」など一つ一つの動作を具体的に説明し、受講者に理解してもらえたか画面を見て確認しながら進めていた。丁寧な指導で分かりやすいと好評であった。

平日の夕方開催であったこと、交通手段に乏しいことから学校付近の高齢者７人の参加にとどまったのが残念であったが、中学生が全て担当する公民館講座は珍しいこと、中学生の地域への貢献や地域全体を視野に入れた学校の教育活動等の珍しさもあって、多くの報道取材があった。

地域の方々に、地域の子どもたちを我が子のように感じてもらうこと、よく知ってもらうこと、子どもたちに学び交流する機会をもってもらうことにより、学校・

家庭・地域社会の風通しが良くなる。子どもたちも、学習で得た知識や技能を活用し、積極的に発信する主体者となれると考える。

3．成果と課題

「学校行事や日頃の学校を訪れる度に、子どもたちのいろいろな表情を見ることができてそれなりに新鮮な感動があります。やはり、傍にいて一緒に生きることが原点と感じることがあります。(母親)」、「ずいぶんと縁遠くなり、学校に行く機会もほとんど無かったのですが、今の子どもさんを見ながら、あまり変わっていないと感じ、年老いても何かのお役にたてればと思います。(女性)」、「やはり、ここの子どもたち。自分の家の子どもだけではなく、すべての子どもさんが立派な後継ぎに成長してくれないと、自分たちも困る。学校もいろいろなことを知らせてくれて以前より随分近くなった。生きやすくもなったし、可愛くなった。(男性)」

・　これらの感想に出会う度に、教育情報の相互交流、学校行事の地域開放や子どもたちが主体となって地域に働きかける活動等を積極的に展開することにより、「地域の子どもは地域で育てる」、「地域の後継者養成は地域の責任」といった意識を醸成できると考える。

　特に、ここ数年、通信、案内等の地区内全戸配布により伝える取組み、学校行事の地域公開化や教育情報の相互交流による地域教育の活性化、パソコン講座の開催等による子どもたちが主体となる地域教育力の活性化を意識的に進めてきたことが高評価を得たと考えられる。

・　学校の取組みが地域に広がり、大人自身が積極的に話しあい、学びあい、交流しあうことにより、3 世代交流、地域おこしやボランティア等の地域活動や伝統行事等を活用した教育や子育ての取組みも拡大しつつある。

・　連携には、学校・家庭・地域社会が、情報を共有し、意識や行動を支え合い、子どもたちの健全育成を図ろうとする具体的な実践が必要と考え、期待するものである。

・　子どもたちを取り巻く環境が著しく変化し、家庭や地域社会の教育力の低下が指摘されているが、学校・家庭・地域社会を結ぶこと、地域教育力活性化を推進することを目指して、具体的な実践が求められていると実感している。

・　過疎化、高齢化、健康不安、自動車等の運転不安、不採算を理由とする公共交通機関の撤退等が進むこの地域では、今後ますます各家庭が孤立するであろう。同時に、学校・家庭・地域社会の連携にも困難が生じよう。

　また、この地域でも、ささやかながら、携帯電話、ケーブルテレビ、インターネット等の整備によるネットワーク化が進められている。学校は、教育情報の発信と収集、家庭、地域住民、関係機関等とのネットワークづくりを一層推進するとともに、学校・家庭・地域社会の実情に即した教育啓発活動の工夫改善や積極的な展開をしていくことも求められよう。

参考文献

1) 山口県教育委員会「地域教育力活性化指針」(2003)
2) 高岡信也「資料で読む転換期の生涯学習」(2002) 北大路書房